ソーラーシェアリング　Q&A

Q：日光が遮られても作物は生育するんですか？

A：作物にはそれぞれ光飽和点【下記※参照】があり、光飽和点が低い作物、つまり、日光をそれほど必要としない作物を選んで栽培します。
　光飽和点が低い作物といたしましては、ミツバ、ミョウガ、シソ等があります。
ゴチカンでは、シソの仲間であるエゴマを栽培しています。

Q：トラクターや田植機は入ることができるのですか？

A：トラクターや田植機の大きさに応じた支柱の高さと間隔にすることができます。
　高さは 2～4ｍ程度、間隔は 4～4.5m くらいが標準です。

Q：収穫したエゴマはどうするんですか？

A：地元の食品加工会社さんに出荷する予定です。将来的には、ソーラーシェアリングで収穫したエゴマ商品をブランド化することなども考えています。

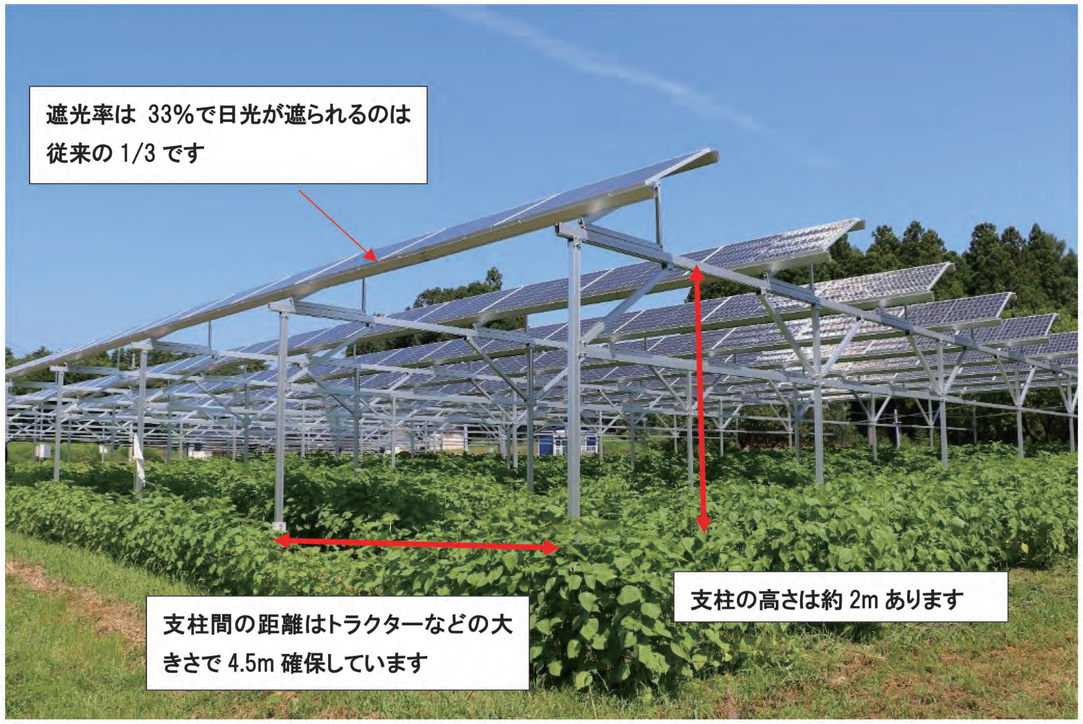
Q：パネルで発電した電気はどこで使われるんですか？

A：固定価格買取制度により 20 年間、東北電力へすべて売電します。収益の一部は環境教育等をとおして、毎年、地域に還元し、再生可能エネルギーの理解促進をめざします。

※光飽和点
植物の光合成において、光の強度が上がると光合成速度が速くなるが、ある速度以上では飽和状態に達し、それ以上速くはならない。その光の強度のこと。

エゴマ畑の上にソーラーパネル！ゴチカン の挑戦！

　ソーラーシェアリングは、今ある畑や田んぼを利用して作物の収穫量を下げずに太陽光発電を行います。地表から 2.5～4mという高い位置にソーラーパネルの間隔をあけて設置することで、作物の成長を邪魔せずに電気を作ることができる画期的な方法です。
　作物に一定以上光が当たってもそれ以上光合成しない、その植物が使わない光をソーラーシェアリングは使います。



二本松ご当地エネルギーをみんなで考える株式会社　廣田代表からメッセージ

ソーラーシェアリングへの挑戦！

　二本松ご当地エネルギーをみんなで考える株式会社（通称　ゴチカン）では、当社の大きな目的の一つである、再生可能エネルギーへの理解促進のため、ソーラーシェアリングを建設しました。発電と同時に下部農地ではエゴマを栽培しています。土地のオーナーさんや営農者の皆さん、又は地元金融機関など地域の方々のご協力により建設実現にいたりました。
　今後も地域に根差した活動を展開してまいります。

ゴチカン 発電設備概要　①針道地区ソーラーシェアリング

二本松市
三保　恵一市長からのご挨拶

ソーラーシェアリングは、市やゴチカンの理念に賛同していただいた土地のオーナーはじめ、経験豊富な営農者や金融機関等、地域の皆様がそれぞれの立場で、高い志のもと行動していただいた成果であり、大変意義深いものと思われます。昨今、地球温暖化が原因の自然災害が頻繁に発生しており、再生可能エネルギーの重要性はますます高まっておりますので、今後も普及促進にむけて支援してまいります。

営農者　布沢アグリネットワーク　代表
菅野　正寿さんから　メッセージ

5 月 25 日にエゴマの種を蒔き、6 月 24 日に植え付けしました。7 月の梅雨の長雨で心配しましたが 8 月からの好天と高温でソーラーの下でも良く生育しました。

ソーラーもエゴマも太陽と土の力で育ち、そこから生まれるエネルギーは地域の資源です。このエゴマを地元でエゴマ油にできることは食とエネルギーの地域資源循環の新たなスタートになったと感じています。

設置場所……二本松市針道字上宮ノ平地内

認定容量……33.0kw

パネル容量…64.3kw

建築面積……846 ㎡

栽培作物……エゴマ

連系開始日…令和２年３月 14 日

ゴチカンでは、錦町地内に野立型の初号機を建設し、2 月に竣工式を行いました。

ゴチカン 発電設備概要　②太田地区ソーラーシェアリング

設置場所……二本松市太田字上川前地内

認定容量……45.3kw

パネル容量…81.0kw

建築面積……1,058 ㎡

栽培作物……エゴマ

連系開始日…令和２年３月４日

土地のオーナー
斎藤　康雄さんから　メッセージ

今回、ゴチカンからソーラーシェアリング建設のお話をいただき、発電プラス営農という形態に『新たな試みでおもしろそうだ』という気持ちが生まれ、協力することとしました。

私自身、40 年間農業に携わっている傍ら、再生可能エネルギーにも関心があり、自宅屋根にも太陽光発電を設置する等しています。エゴマの栽培にも参加して、ゴチカンの取組に協力していきたいと思います。